

1st day
PM

第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／原賀 壽昭 長崎県 社会教育支援「草社の会」 会計監査
吉岡 康行 広島県 国立江田島青少年交流の家 次長

分科会の進め方

13:30～13:35

1 子縁を核とした地域総ぐるみの活性化事業

13:35～14:05

懸樋 勉(鳥取県鳥取市) 鳥取市立東郷地区公民館 館長

東郷地区は過疎で、少子高齢化も著しく、農業の担い手がなく、耕作放棄地も増えてきている。公民館は保育園を併設し、小学校とタイアップして、地域総ぐるみの活性化事業に取り組んで来た。中核となるのは「子どもの縁」である。公民館では、放課後子ども教室を実施、また小学校のPTAは、「東郷みらい塾」を立ち上げ、公民館、子ども会、老人会、NPO東郷未来応援隊など地域の諸団体が連携して、地域ぐるみで子どもの成長をバックアップしている。活動は若者を巻き込み、地域活性化の気運が高まって来た。公民館、PTAともに、活動成果が評価され、文部科学大臣表彰を受けることができた。

2 人を繋ぎ、地域と共に歩む保育所の理念と実践

14:10～14:40

岡本 由姫美(広島県府中市) 社会福祉法人光彩会 和光園保育所 所長

人は誰もが「光彩」を放つという理想を法人名に託しています。和光園保育所は、商業施設内にあり、現在、園児160名、商業施設内に子育て支援センターを併設しています。最大の目標は「地域とともに歩む」ということです。「連携」も「ふれあい」も「相談」も「チャレンジ」も「出前」のサービスも、全て目標を達成するための方法の一つです。地域に頭を下げて保育所を支えて下さいとお願いし、同時に保育所もみな様と一緒に歩みますと宣言しました。地域の力で老朽化していた保育所の内部はみるみる整備されて行きました。一方、保育所からは、部屋を活用していただき、園庭を祭りに開放し、教育用具を貸し出し、地域行事に参加し、高齢者施設の訪問を始めました。連携活動は、共同菜園に発展し、芋煮会・クリスマス会・餅つき大会・4町内合同の防災訓練、企業店舗と連携して「ハロウィン」もできるになりました。地域から声をかけていただき、保護者から子育てが楽になったと言っていたことで地域とともに歩む保育所を実感しています。

ティータイム

14:40～15:05

3 子育て支援・学校支援・環境保全を中核とした婦人会活動

15:05～15:35

菅 富美子(長崎県佐々町) 佐々町地域婦人会 婦人会長

平成19年、「長崎っ子を育む行動指針モデル事業」に応募した活動案が採択され、子育てひろば「ふくふくクラブ」を立ち上げ、子育て支援活動を開始した。また平成23年からは、県婦連活性化事業の一環として学校支援活動も開始した。「ふくふくクラブ」では、経験豊かな地域のおばちゃんたちが、子育て中のママたちに寄り添い、広場が安全・安心で居心地の良い場所になるよう努めています。

また学校支援では、主として環境保全活動に力を入れ、家庭科の授業支援に参加して、生ゴミから堆肥を作り、野菜づくりに生かし、最後は給食に活用するという勉強と暮らしを結ぶ循環型の学習支援をしています。活動を通して、学校、子ども、保護者との協働が実現し、合わせて婦人会会員の生き甲斐や新たな学びに繋がっています。

4 「えほん侍」が見せる父の背中 ～絵本で繋がる家族と地域～

15:40～16:10

池田 大助(宮崎県日南市) 宮崎「えほん侍」 リーダー

長崎県大村市に在住の頃に、自身もメンバーとして活動していたパパ読みの「えほん侍」が活動のモデル。Uターン・転職で宮崎へ戻り、同じ活動を立ち上げ、メンバー7名で、2市1町の図書館でそれぞれ月1回のお話の会の他、学校・幼稚園でもお話を開催している。「えほん侍」は、父親だけのグループであり、ちゃんまげのかつらを被り、オリジナルのTシャツを着用して読み聞かせを行うなど、見た目でも受けるように工夫している。父親自身が楽しむことを前提とし、自宅読み聞かせの延長として取り組み、選書などにも父親の工夫を出している。活動は完全ボランティアで、「パパ読み」の自己充足と、絵本による子どもたちの心の成長への貢献とともに、絵本と育児で繋がる新しいネットワークを楽しんでいる。もちろん、勤務先のワークライフバランスに対する理解は最終目標である。